

きらめく

びと

世界に繋がる
バレーボールの輪

かさい人

青年海外協力隊に参加
三枝大地 さん

青年海外協力隊に参加しようと思ったきっかけは？

大学卒業後すぐに、大学時代のバレー部の同期から話が来て、協力隊のバックアッププログラムでアフリカのニジェールでバレーボールを教える手助けをした事がきっかけです。次は自分が中心となって教えてみたいと思いました。

青年海外協力隊に参加して感じたことは…？

最初はやはり、日本との文化の違いに戸惑いました。中でも一番違うのは、時間の感覚。チリは時間に対して、よく言えば‘おおらか’、悪く言えば‘ルーズ’。そのためチリでは、練習時間に30分程遅れてくるのは当たり前でした。でも最初から注意はしません。まずは文化の違いを学んでから、その上で‘やっぱり違う’と感じた事は注意するように心がけました。その時も、何故時間を守るべきなのか、それを説明し伝えていくようにしました。ただ命令するだけでは直りません。納得して初めて、行動が伴うのです。その甲斐あってか、僕が日本に帰る頃には、練習時間の15分前には集合し、各自でウォーミングアップを始めるようになっていました。

青年海外協力隊で得たものは？

協力隊に参加して、本当にたくさんの「友情」を手に入れることができました。日本、チリ、それ以外の多くの国の人々とも。この「人の輪」はこれからの人生において大きな宝物です。

バレーボールを始めたきっかけは？

中学校の部活動で始めました。僕はもともと、運動は好きでしたができる方ではなく100m走などは学年でも最下位に近かったと思います。しかしトレーニングを続けることによって体力が飛躍的に伸び、今のレベルまで来ることができました。最初からトップ



<プロフィール> 三枝大地（さえぐさ・だいち）1980年加西市生まれ。東海大学で男子バレーボール部に所属。日本一を経験した4年時にはマネージャーとして、チームの運営に携わる。青年海外協力隊（平成16年度3次隊）に参加し、2年間赴任先のチリ、アウストラル大学でバレーボールを指導し、平成19年4月に帰国。

にいたわけではなく、下から這い上がってきた経験を持つというのが僕の強みです。今でも加西に帰ったときは、中学校時代の恩師をよく訪ね、中学生の指導を手伝っていますが、その時には自分の経験をもとに、努力によってどこまでも可能性は広がる、という事を伝えています。もともと自分ができなかったからこそ学生の気持ちを理解できる部分ってあると思うんです。将来は、そういう経験を生かして教育の道に進む事も少し考えています。でも今は、まだまだ選手として自分がバレーボールをしていきたいと思っています。

加西市についてどう思いますか？

久しぶりに帰ってきて、雰囲気はあまり変わっていないと感じました。加西市は、のどかで落ち着いたいい所なので大好きです。できればこのままであって欲しいのですが、若者が帰ってくるためにも、もう少し便利になればいいな、と思います。

青年海外協力隊に参加したおかげで、スペイン語も話せるようになり、今は英語も勉強中。努力によって何でも可能になる、と信じ貪欲に何にでも挑戦している三枝さん。その目の前には限りない世界が広がっていることでしょう。



▲チリの子供達とも、バレーボールを通じて仲良くなりました。



▲アウストラル大学にて。指導に熱が入ります。